

東西小学校の統合に向けて 協議が進む

かねてから懸案になっていた東西小学校の統合問題について、7月13日に小学校統合格討委員会が初会合を開きました。これは、少子化により数年後には学校によっては複式学級になってしまふことが危惧され、保護者の間から統合についての意見がなされてきたことに応えるものです。委員の構成は、議会議員および教育委員、小中学校PTAの前会長を含む副会長以上、学校長全員と区長会、民生委員、スクールガード代表者を加えた30名です。

望ましい方向性を模索

委員会は午後6時30分から、役場において開催されました。最初に若林全村長が「少子化の中、学校の子どもの減少により、教育的対応を迫られていますので、対応をご検討いただきたい。」旨挨拶があり、退席後、委員長に吉田英夫村議会議員、副委員長に福島重次村議会議員を選び、委員長を座長として話し合いました。

はじめに、これまでの経緯が高野勉教育長から説明され、意見交換が行われました。特に強く議論されたのは、年々減少していく児童数の中で、どのような学校の体制が望ましいかということでした。

村に多くの人々が住める環境の確立が第一という意見。全体的な環境からなかなか人口の社

ありません。今後、通学の利便性などの課題を初冬にかけて整理し、成案を得て村に意見具申するものです。

これまでの経緯

児童生徒の減少に対する対応については、以前から議論されてきた経緯があります。しかし、大内沢分校の本校への統合などの課題もあり、本格的な議論が始まったのは平成22年の夏からでした。この時は非公式な「東秩父の学校教育を考える会」という形で検討が行われました。参加者は、議会議員、教育委員、小中学校PTA役員で、オプザーバーとして各校長先生が出席しました。結果は「課題を確認し、時間において再度話し

会増は難しいという分析。目の前にある児童減少による複式学級（後に説明）の発生への危惧など、別表に示した児童数の現状と推移の資料を見ながらの議論が進み、望ましい小学校のあるべき姿の模索が続きました。なかでも、実際に小学生を抱える現役世代の危機感は大きく、「できる限り早く」というものでした。今回得られた方向性は、「少子化を前に、教育現場を活力あるものにするためにも、東西小学校を統合して、新しい学校とすることが望ましい。また、学校としては、施設の面、広さ、通学の便、財政的観点から東小学校を利用してはどうか。時期としては平成25年4月を目途にして。」というものでした。これはあくまでも、検討委員会としてのものであり、村の決定では

経緯の説明会を開催します

検討委員会では、この「望ましい方向」について、さらに広くご理解をいただくため、次により公開の説明会を開催します。保護者をはじめ、関心のある方はご参加ください。
日 時 8月11日(木) 午後7時から8時30分
会 場 東秩父村コミュニティセンター「やまなみ」

別表

小学校児童数見込		平成23年度から平成29年度までの7年間							
学校名	学年	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
東小学校	児童数	1年	11	10	5	7	6	4	8
		2年	8	11	10	5	7	6	4
		3年	10	8	11	10	5	7	6
		4年	14	10	8	11	10	5	7
		5年	13	14	10	8	11	10	5
		6年	14	13	14	10	8	11	10
		計	70	66	58	51	47	43	40
西小学校	児童数	1年	8	11	11	10	6	7	4
		2年	10	8	11	11	10	6	7
		3年	10	10	8	11	11	10	6
		4年	13	10	10	8	11	11	10
		5年	15	13	10	10	8	11	11
		6年	16	15	13	10	10	8	11
		計	72	67	63	60	56	53	49

合うこと」で終わっていました。次いで本年1月に会議が持たれ、大きく議論が進み、2回目の座長を務めた田中丈司村議会議員が参加者を代表して村長に「東西小学校の統合を具体的に進めることが望ましい」との意見具申がなされました。これを受けて、村と教育委員会が協議し、要項を定めて開催したのが今回の検討委員会です。数年前から保護者の間で考えられ、表立った議論としても検討された上での議論でしたので、公的な委員会の第1回目にもかかわらず、具体的な形での方向性が出たのもこの積み上げがあったからです。問合せ 教育委員会 電話 82-1230

* 複式学級

複式学級とは、小学校1年生と2年生の合計が8人以下の場合と、2年生以上で2学年の合計が16人以下になると、教員の配当が一人となり、2学年を一人の教員が持つこととなります。このことはメリット、デメリットがありますが、一般的には学級運営などに難しいものがあるとされています。別表によると、このまま社会的増加がない場合、東小学校では平成26年から複式学級が発生し、西小学校は28年度からです。統合した場合、当面回避されます。